

乙 第 四 号 証 〇

SF Adventure

アドベンチャー

new entertainment magazine

MARCH
1981
3
590YEN

第1回
「日本SF大賞」
発表!

西村寿行:地獄

山田正紀:最後の敵

栗本薫:メデイア

荒巻義雄

鏡明

李家豊

豊田有恒

高齋正

中村誠一

長谷邦夫





第一回日本SFF大賞発表

正賞及び副賞百万円

日本SFF作家クラブ

●受賞作品

堀 晃『太陽風交点』

(早川書房刊)



堀 晃氏

略歴
昭和十九年 兵庫県野市生
昭和四十四年 大阪大学基礎工学部機械工学科卒業、大阪の美術類会社に勤務
十六歳で高校の学校新聞にSFF小説を書き始めて以来二十年という長いキャリアの持主。高校在学中に岡井謙三氏の主宰するSFF同人誌「NU」に入会、本格的な小説執筆を開始した。すでに同人には小松左京氏、扇村操氏がいた。また日本SFF界の草分け的存在である「宇宙塵」(主宰・柴野拓英氏)とも連絡をとりあい、ファン活動をはじめ、同人誌「タイム・パトロール」(TFP)、「パラノイア」などは彼が仲間とともに発行したこの時代の代表的ファンジンである。昭和四十五年、「SFFマガジン」(早川書房刊)六月号に「イカサの翼」を発表。初の商業誌登場で、一躍脚光をあびる。この間、一頁してハードSFFの数が少ないに手として活躍してきた。著書に受賞作のほか「ショートショート集」「エネルギー教出版版」(作品社)、「樹田地下オデッセイ」(ハヤカワ文庫SFF)「近刊予定」がある。

●受賞のことは

二十年目の祝杯

成人の日の前夜、日本SFF大賞受賞の知らせを受けました。本当にとつぜんの電話で、どう反応していいのかわからず、親しい人たちから、お祝いの電話が何本か入り、新聞社からの問い合わせなどがあり、これはたいへんなことになった、というのが正直な感想です。
午前零時を過ぎ、成人の日になって、どうにか気分が落ちつき、ワインを抜いて祝杯をあげ、やっと受賞の喜

びがこみ上げてきました。そういえば、十六歳の時、学校新聞にはじめてSFFショートショートを書いてから、今年でちょうど二十年目なることを思い出しました。SFFファンとして、成人を迎えたわけです。
不器用な性質で、二十年間、ハードSFF(と信じるもの)だけを書いてきました。「太陽風交点」は正月休みを利用して、外出もせず書いた記憶があり、それだけに愛着のある作品です。書き手としても成人らしく、一人前の仕事をしろという激励を含めての賞なのだろうと感じているところです。



ここで受賞作が本にまとまるまでお世話になった方々の名をあげると、ちょっとした現代日本SF史になってしまいます。

時間的には、「N.U.L.L.」宇宙塵をはじめとする同人誌の主宰者、同人の方と、デビュー以来のSFマガジン歴代編集長、出版に際して、編集・装幀・解説を引き受けて下さった方々……。

空間的には、北は北海道から南は熊本までに在住の、ファン時代から親しくおつきあいいただいているSF関

保者の皆様……。

こうした方々のつくる時間と空間の広がりの中で、有形無形の協力とはげましを受けながら書きつづけているというのが実感です。

この機会に、これら日本のSF複合体を構成する皆様

昭和五十六年一月十五日

堀 晃

SFの原点をいざいざと保持する作品

〈選評にかえて〉



日本SF大賞銓衡委員会

代表 小松左京

日本SF作家クラブは、同クラブの總會によって選出された日本SF大賞銓衡委員会の審議により、昭和五十五年度、第一回「日本SF大賞」を、堀晃氏の短編集「太陽風交点」に授賞する事に決定いたしました。

第一回のことですので、ここで「日本SF大賞」の銓衡手続きについて、ご説明申し上げます。

「日本SF大賞」は、昭和五十五年六月の日本SF作家クラブ總會で設置が決定され、その後、副賞、授賞式、誌上発表等について、徳間書店との協定が成立、作家クラブ總會で承認されました。

賞設定の趣意、性格などについては、すでに本「SFアドベンチャー」誌昭和五十五年十月号に発表した通りであります。

本賞の銓衡経過について申し上げます。

として商業誌上に発表、または単行本として刊行された日本人作家の手になるSF小説、評論を中心とする作品群の中から、書面アンケートの形で候補作の推薦をもとめます。

銓衡委員会は、会員アンケートの集積結果にもつき、種々会議の上、まず候補作数箇を選定いたしますが、このアンケートの集計結果、および候補作品名は、銓衡委員会以外どこにも発表いたしません。

この候補作品決定後、あらためて最終銓衡委員会を開催し、授賞作品を選出します。

が、この銓衡経過については、特に個々の作品についてあげつらう部分は原則として外部に公表せず、決定された授賞作品の選定理由についてのみ、銓衡委員長の見解において発表する事になっております。

以上のような銓衡手続きによってえらび出された第一回授賞作品について述べさせていただきます。

賞の設定から授賞決定までの期間が、第一回の事ゆえ、いささかあわたたしくはありましたが、会員諸氏からのアンケートの

回収率はきわめてよく、ほとんど百パーセントにのぼり、推薦作品の分散もすくなく、アンケート集計を参考として候補作を決定する第一回銓衡委員会はスムーズに候補作品何本かを選出する事になりました。

最終候補にのこった中には、もしその作品名をきかれたら、意外に思われる方も多くであろうものもあつた事だけ、おつたえし申し上げます。

つづいて昭和五十六年一月十四日にひらかれた最終銓衡会では、授賞作品の決定をめぐって、かなり熱っぽい議論がかわされ

都筑道夫&阿刀田高 選



ミステリー総合誌「ルパン」では左記の要領でショート・ショートを集集します。

- ★応募資格 特に制限はありません。ただし、自作未発表作品に限ります。
- ★枚数 400字詰原稿用紙15枚程度
- ★締切 第一回 都筑道夫選 81年1月末日
- ★発表 第二回 阿刀田高選 81年4月末日
- ★発表 第一回 ルパン81年春季号 (3月16日発売)
- ★発表 第二回 ルパン81年夏季号 (6月10日発売)

- ★選考委員 都筑道夫氏、阿刀田高氏が交互にあたります。
- ★宛先 徳間書店「ルパン」編集部 西105 東京都港区新橋4-10-1 原稿の1枚目に住所、本名と筆名、年齢、職業、電話番号を明記の上、必ず右上を綴じて下さい。
- ★応募方法 入選作についてはすべての権利は当社に帰属します。なお、応募作品の原稿返却ならびに選考に関するお問い合わせは一切応じられません。

ましたが、最終的には全委員一致の上、「太陽風交点」の受賞が決定いたしました。

「太陽風交点」は、作者堀昇氏が、かなり長期にわたってSF専門誌に発表した短篇をあつめたものであります。それが短編集であるゆえ、第一回授賞作品としてはやや弱いのではないかという意見も録査委員会に出ました。また、長期にわたって発表されたため、作品の質、できればに若干のばらつきがある事も否めません。また全体として、小説技法にまだ生硬な所があるというある委員の指摘も、首肯し得るものがあります。にもかかわらず、最終的に、録査委員会がこの作品を授賞作に決定したのは、この作品の中に、「現代SFの原点」ともいべきものが、非常にいきいきと鮮やかに保持されていると判断したからにほかなりません。

「現代SFの原点」を一言で申しますと、それは「科学文明・宇宙時代の人類」をそこで生きる一個の「生身の人間」の側から「文学」の方法で描くところ、という事でありませぬ。

後期産業革命期、人類のうみ出した科学技術の大幅な社会的適用は、私たちの社会

を変え、生活を変え、個々の人間の人生の可能性さえも大きく変えてきました。それだけでなく、「科学」の方法で探求、置積されてきた知識は、私たちのすむ世界、環境、さらに、人間そのものに對する認識を、根本から変えつつあります。

「現代SF」は、一方において二十世紀になつて出現しはじめた「知的大衆社会」の、新しいタイプのエンターテインメントとしての性格をもちつつ、他方においては、科学文明時代、宇宙時代という新しい状況に對して、「生身の人間」を代表する文学の立場からこの状況に挑戦し、その可能性を探求するという立場をとりつけてきました。——エンターテインメントとしてのSFは、今日、映像、イメージ音楽の世界をふくめて、ますますその範囲とバリエーションを拡大しつつある事は、ご存知の通りです。しかし、私たちSF作家としては、もう一つの「原点」も密閑に附すわけには行きませぬ。

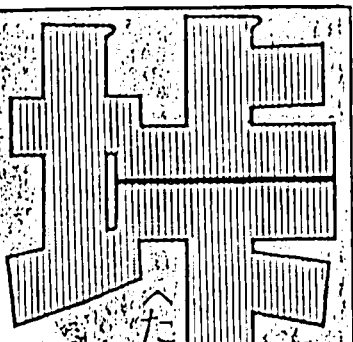
堀昇氏の「太陽風交点」には、所載の全短編を通じて、こういう意味での「原点」が、最も鮮明な形で保持されていると録査委員会は判断し、ここに第一回「日本SF

大賞」の授賞作に決定した次第でありませぬ。

作者の堀昇氏は、昭和十九年兵庫県豊野市生れで、すでに十代後半から、関西のSF同人誌「NUL」にSFを書きはじめました。大学は工学系にすすみ、その後某紡績会社に技術者として就職し、現在もその職にある關係上、どちらかといえば専作であります。しかし、この長期間にわたる創作活動が一冊にまとめられたところを通過すると、私たちSF作家が、戦後はじめて「現代SF」——いわゆる「一九五〇年代の海外SF」に接した時に感じた感動と、それ以後、「日本SF」の確立のためにそそいできた情熱の源泉となったあるものが、脈々と保たれている事を感ぜざるを得ませぬ。

作品はすべて、「宇宙時代の人類」をあつかつたものであり、やや難解ととられるむきもあるかも知れませんが、ここに日本SF界の共通の基盤がある事を、大方の諸氏にひろく知って頂きたい次第であります。

この受賞を期に、堀昇氏の一層の活躍を期待したいと思います。



娘の死を悼む父親。
その感傷的な旅へ
たわも黒い影……

事故死した娘の日記をたよりに峠を助ね歩く父親。山深い寒村で彼が出会ったものは、そして娘の死の真相は……。山熟の境地を示す、ハードロマン最新作。

西村寿行

西村寿行選集 37
新書判・定価700円



徳間書店の本